

## 卒業時の獲得能力に関する調査結果報告（学修成果に係る報告）

本学では、2016年度以降、前年度末卒業生に対して、卒業半年後に、アンケートを実施しています。その中で、特に、本学が定める「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」※と「地域社会に貢献する力」について、卒業時での力と卒業後半年で重要だと思う力に関する設問を設定しています。

設問は、「4つの力」それぞれに数問から構成されており、全部で19設問（地域社会に貢献する力（8設問））となっています。また、各設問は、「そう思う」（4点）から「そう思わない」（1点）の4件法であり、以下の集計結果の得点は、いずれも1から4点の範囲を取ります。

以下に、それらの結果について報告します。

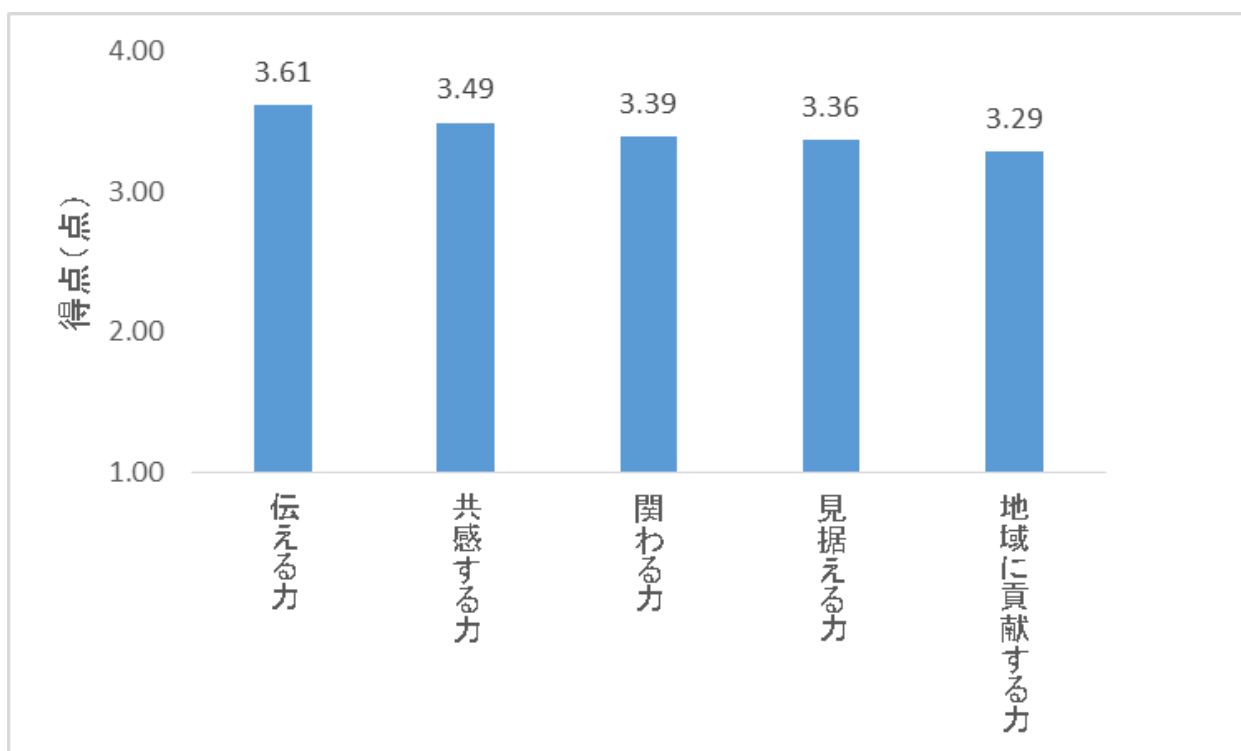
※「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」とは、本学の建学理念を受けて、本学の学生全体が修得すべき能力・資質として「四つの力」（「見据える力」、「共感する力」、「関わる力」、「伝える力=理解する力」）を定めている。

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
対象者数 ※	767人	845人	1,086人	1,131人
回答者数	57人	65人	141人	150人
回答率	7.4%	7.7%	12.98%	13.26%

※2016・2017年度は前年度の社会福祉学部、子ども発達学部の卒業生を対象に、2018・2019年度は通学課程の全学部の卒業生を対象に実施した。ただし、アンケート回答拒否者を除いているため、実際の卒業生数とは若干異なる。

### 1 卒業半年後に「重要だと思う力」（2019年度）

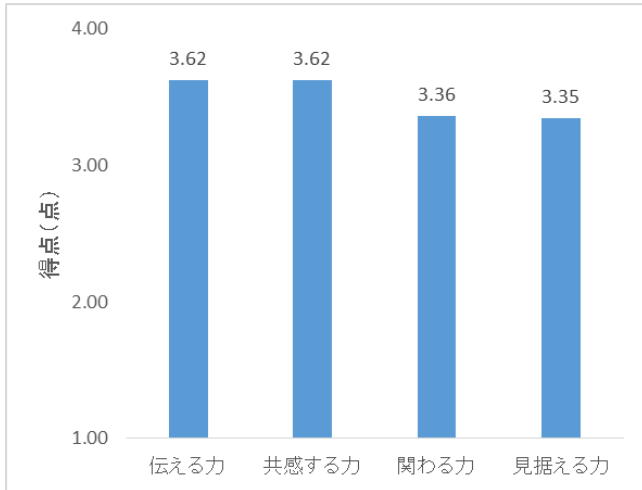
卒業半年後に重要だと思う力について聞いたところ、全ての力で3点台となっていた。特に、「伝える力」が3.61点と最も高く、次いで、「共感する力」（3.49点）、「関わる力」（3.39点）、「見据える力」（3.36点）、「地域社会に貢献する力」（3.29点）の順となっていた。



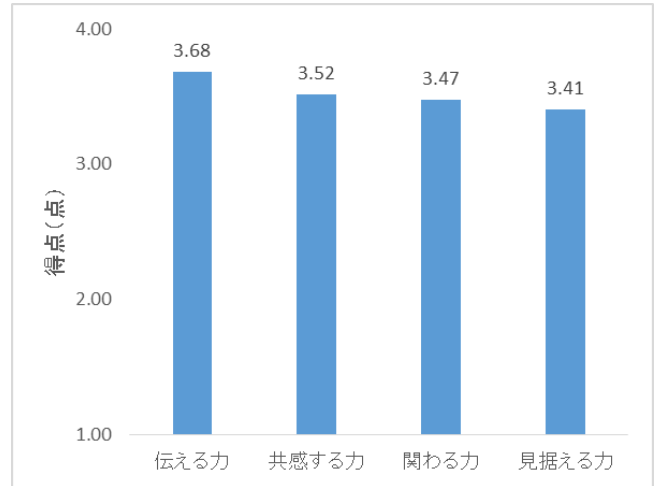
図表1 卒業半年後時点での「重要だと思う力」（得点降順）

【参考】年度別の「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」と「地域社会に貢献する力」の重要度

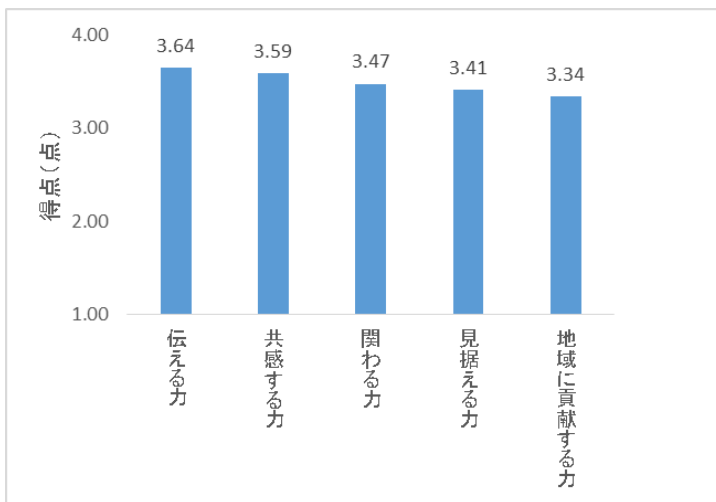
いずれの年度においても、すべての力で3点以上となっており、重要だと評価されている。  
各年度別に見ると、重要だと考えられている力の順序は、「伝える力」、「共感する力」、「関わる力」、「見据える力」の順となっている。



図表 2 2016年度の「重要だと思う力」



図表 3 2017年度の「重要だと思う力」



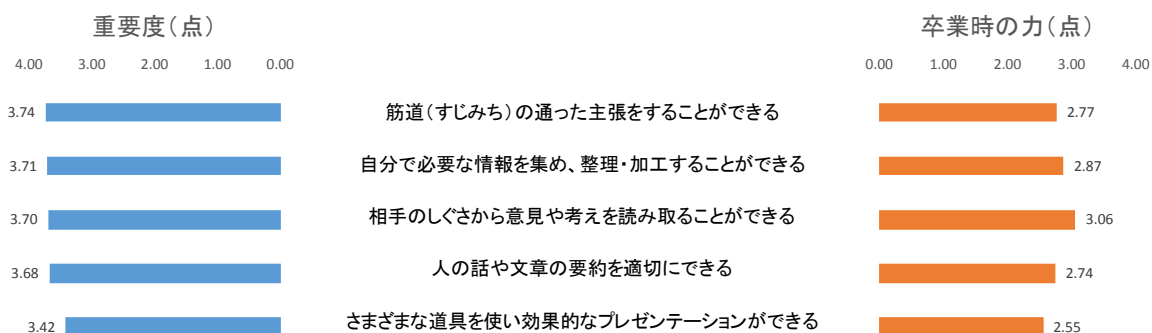
図表 4 2018年度の「重要だと思う力」

## 2 重要だと思う力と卒業時点での状況の比較（2019 年度）

次に、「日本福祉スタンダード（4つの力）」と「地域社会に貢献する力」の下位尺度別に「重要だと思う力」と「卒業時点で身に着けていた力」についての比較を行う。

### （1）伝える力

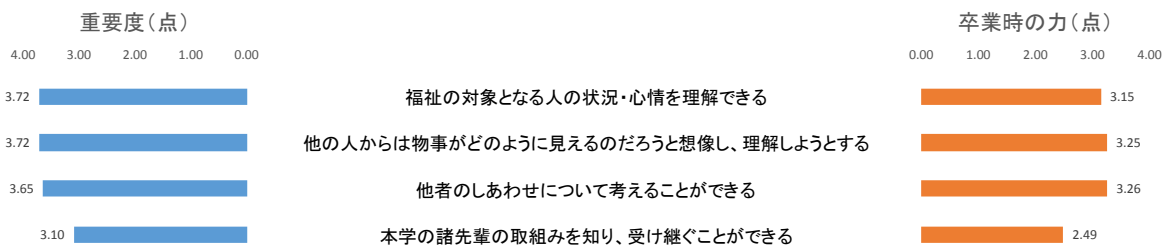
「伝える力」における重要度に注目すると、「筋道の通った主張をすることができる」が3.74点で最も高く、次いで、「自分で必要な情報を集め、整理・加工することができる」（3.71点）、「相手のしぐさから意見や考えを読み取ることができる」（3.70点）の順となっている。



卒業時点での力については、「相手のしぐさから意見や考えを読み取ることができる」が3.06点と最も高く、次いで、「自分で必要な情報を集め、整理・加工することができる」（2.87点）となっている。

### （2）共感する力

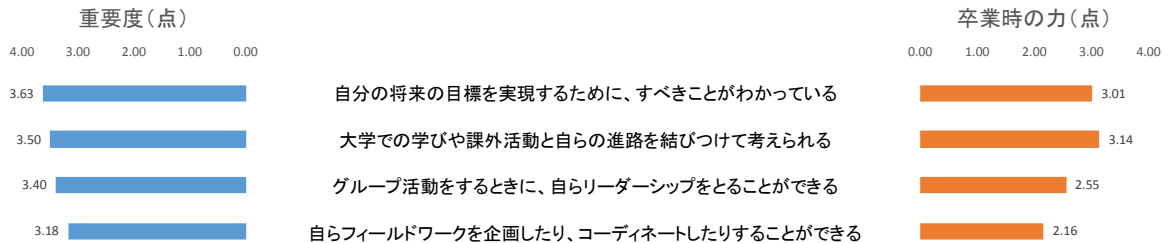
「共感する力」における重要度では、「福祉の対象となる人の状況・心情を理解できる」（3.72点）と「他の人からは物事がどのように見えるのだろうか」と想像し、理解しようとする」（3.72点）が最も高くなっている。



卒業時点での力については、「他者のしあわせについて考えることができる」が3.26点と最も高く、次いで、「他の人からは物事がどのように見えるのだろうか」と想像し、理解しようとする」（3.25点）、「福祉の対象となる人の状況・心情を理解できる」（3.15点）となっている。

### (3) 関わる力

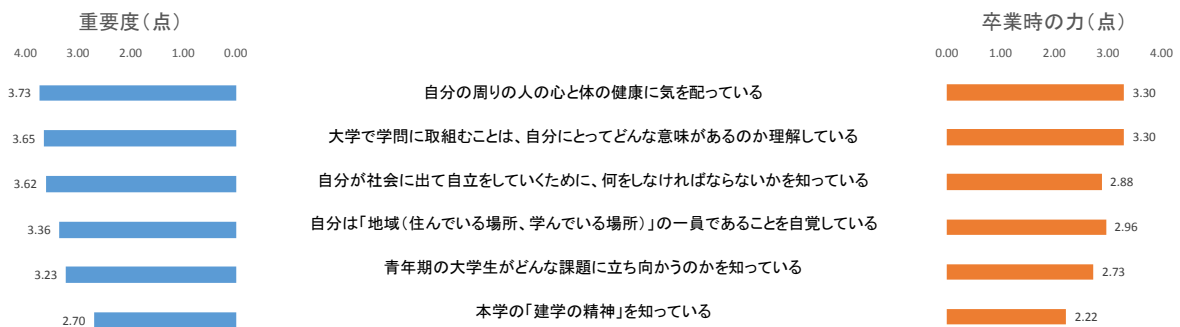
「関わる力」における重要度では、「自分の将来の目標を実現するために、すべきことがわかっている」が 3.63 点と最も高く、次いで、「大学での学びや課外活動と自らの進路を結びつけて考えられる」(3.50 点) の順となっている。



卒業時点での力については、「大学での学びや課外活動と自らの進路を結びつけて考えられる」が 3.14 点と最も高く、次いで、「自分の将来の目標を実現するために、すべきことがわかっている」(3.01 点) の順となっている。

### (4) 見据える力

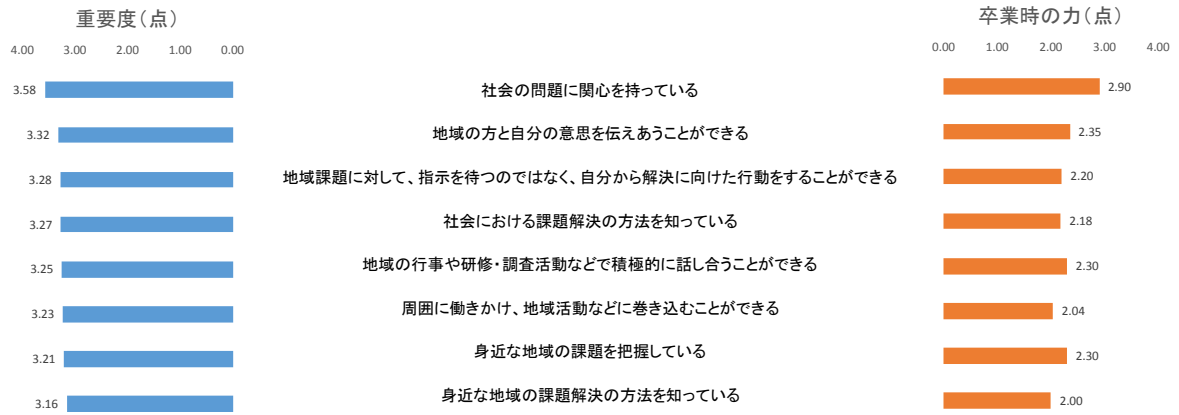
「見据える力」における重要度では、「自分の周りの人の心と体の健康に気を配っている」が 3.73 点と最も高く、次いで、「大学で学問に取り組むことは、自分にとってどんな意味があるのか理解している」(3.65 点) の順となっている。



また、卒業時点での力については、「自分の周りの人の心と体の健康に気を配っている」と「大学で学問に取り組むことは、自分にとってどんな意味があるのか理解している」で 3.30 点と最も高くなっている。

### (5) 地域社会に貢献する力

「地域社会に貢献する力」の重要度では、「社会の問題に関心を持っている」が 2.90 点と最も高く、次いで、「地域の方と自分の意思を伝えあうことができる」(3.32 点) の順となっている。



また、卒業時点での力については、「社会の問題に関心を持っている」が 3.58 点と最も高く、次いで、「地域の方と自分の意思を伝えあうことができる」(2.35 点) の順となっている。